

留学生「伊勢いいね！」

発信1日1回以上外国人の宿泊増加期待

三重県伊勢市と皇学館大(伊勢市)が来年2月3日、伊勢神宮を始めとする日本文化への理解を深め、情報発信してもらおうと、欧米の大学院生や若手研究者らの短期留学を初めて実施することがわかった。20年に一度、ご神体をうつす「式年遷宮」が10月に行われた伊勢神宮は多くの参拝者でにぎわうが、外国人の割合は低い。市は「未来の知日派の情報発信が海外からの『お伊勢参り』につながる」と期待している。

来年2月から

市と皇学館大「短期」で招く

短期留学の期間は2月24日〜3月14日の3週間で、英・ケンブリッジ大や米・プリンストン大、ポーランドのワルシャワ大など欧米の著名な大学の大学院生ら14人が参加を予定している。伊勢市が航空券などの費用計約400万円を負担し、皇学館大の施設に宿泊しながら神道や日本の文化についての講義を受けるほか、神道の儀式なども体験する。



期間中に1日1回以上、ツイッターなどソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を通じて、「伊勢」について情報発信することが参加条件だ。終了後は、所属大学などを通じてレポートを発表するよう求めている。皇学館大の清水潔学長は「将来、知識人として活躍する人たちに、神道を根底とした日本人の考え方を理解してもらおう機会になれば」と語る。



香嵐渓色づく

愛知県豊田市足助町の香嵐渓で紅葉が見頃を迎え、秋晴れの行楽日和となった16日、大勢の人出でにぎわった。写真、杉本昌大撮影。赤や黄色に色づいた約4000本のカエデに、紅葉狩りを楽しむ家族連れらは「きれい」と歓声を上げてながらカメラを向けていた。足助観光協会によると、今年の紅葉のピークは20日から約1週間。12月1日まで日没から午後9時までライトアップも行われている。

中国拘束の市議

靴サンプルに違法薬物

ナイジェリア人の妻から受け取る

愛知県稲沢市の桜木琢磨妻から渡された」と説明していることが、関係者への取材で分かった。「違法薬物が入っている」とは知らなかった」と否認しているという。関係者によると、桜木市議(70)が覚醒剤とみられる違法薬物を所持した疑いで中国の公安当局に拘束された事件で、桜木市議は薬物の入った荷物について、公安当局に「取引のあったナイジェリア人男性の

年、統計を取り始めた1896年(明治29年)以来初めて1000万人を超えた。しかし、昨年の外国人の参拝者は4万人で、全体(803万人)の0.5%に過ぎない。また、前回遷宮の1993年と翌94年は800万人を超えたが、95年は200万人以上減り、以降も落ち込みが続いた。同市には、これまで積極的に取り組んでこなかった外国人観光客の誘致で、落ち込みを緩和したい意思がある。伊勢市は、少なくとも数年前は短期留学プログラムを続ける方針。同市観光企

外国人宿泊 高山は年10万人超

東海地方の観光地を有する自治体のうち、外国人の呼び込みを積極的なのは岐阜県高山市だ。外国人の宿泊者数は2006年からほぼ毎年、10万人を超えている。昨年15万人に上り、宿泊者全体(約37万人)の4%を占める。高山市は人口9万人で、規模は人口13万人の伊勢市より小さい。しかし、1986年に国際観光都市を宣言して以来、台湾やタイなどで行われる国際観光展などで積極的にPR活動を展開。これが奏功し、古い街並みが残る市内には欧米だけでなくアジアからも多くの観光客が訪れるようになり、06年に外国人宿泊者が10万人を超えた。同市海外戦略室は、14年の外国人宿泊者数の目標を30万人に定め、「国内だけでは誘客にも限界がある。『おもてなし』の心で外国からの観光客誘致に力を入れ続けたい」としている。

回収菓子からニコチン検出

「黒子のバスケ」脅迫

「黒子のバスケ」脅迫週刊少年ジャンプ(集英社)の人気漫画「黒子のバスケ」を巡る脅迫事件で、コンビニ大手「セブンイレブン・ジャパン」(東京)が回収したキャラクター関連菓子から微量のニコチンが検出されたことが捜査関係者への取材でわかった。何者かが千葉県内の店舗に置いたとみられ、警視庁が威力業務妨害などの容疑で捜査している。

捜査関係者によると、菓子は漫画のキャラクターが描かれたウエハース。先月中旬、同社に届いた脅迫文で「毒を入れる」と名指された商品。警視庁が調べたところ、毒物のニコチンが検出された。

介護施設から帰宅中衝突され93歳死亡

16日午後4時55分頃、愛知県一宮市朝日の県道17号で、直進していた同市木曾川町、介護施設職員中野雅範さん(56)の乗用車と、左から来た乗用車が衝突。中野さんの車の後部座席に乗っていた同市文京、無職

女子3人苦痛の誘因とな書公表した。報から「悪口を言わ月けられた部活動

の顧問教諭と担任教諭が、いじめがあるという問題意識を持たなかった点を指摘。いじめを発見、対処する体制作りを求めた。調査委は、教育長を委員長に専門家も交えた7人で構成。教員や生徒、家族から聞き取りなどを行った。

その結果、生徒は2年の1学期頃から、部活動で悪口や無視、仲間はずれなどのいじめを受けていたことが判明。「いじめが誘因」と結論づけた。また、顧問らは今年2月に生徒から相談を受けて、悪口を言った部員に謝罪させ、「問題は解決した」と考えたが、生徒がその後、不登校となった原因がいじめだとは考えなかった。報告書は、顧問らの対応について、「思いをしっかりと聞いておらず、十分な分析が出来ていなかったと思われる」と批判した。

社会面に情報を
〒460-8470
読売新聞中部支社
社会グループ
FAX 052-211-1085
chubu@yomiuri.com

新聞も、スマホも。
読売プレミアム
ニュースや
特典が満載
yomipre.jp
写真はこちらへ
dokusyap@yomiuri.com

土石流の 砂防能力超えた豪雨

緑の中、そくだけ引つ掻いたような茶褐色の山肌がふもとへと広がる。伊豆大

対策として造った。1000年に1度のレベルの24時間雨量470ミを想定し、校などは被害を免れた。「砂防ダムのおかげで、命も家も残りました」と、ダム下

地区上流は土石流発生の可能性が低いとされ、ダムは造られていなかった。だが

の「短時間強雨」が降った回数には昨年、282回で、ここ10年間の平均は30年前のおよそ1.5倍。土砂災害も比例するように増え、1981年からの10年間は年平均7.97回だった発生と、昨年までの10年間には

険箇所のうち指定作業が終了したのはまだ6割。詳細な地形調査が必要で、労力がかかるうえ、「地価が下がる」と住民が反発するケースも多いとされる。

群馬県北部の山間部、みなかみ町栗沢地区で指定話

業後も友人に出会える磁力のある場所。」

早稲田大学
WASEDA University